

社会環境生命科学専攻 国際環境科学講座 病原ウイルス学分野 Department of Virology

感染症学なかでもウイルス学のすすめ ウイルス学者は「へび使い」?



私どもの研究室では、主にヘルペスウイルス感染症を研究しています。以下に現在進行しているテーマを紹介します。

1) ヒトヘルペスウイルス6, 7感染における宿主免疫応答の研究

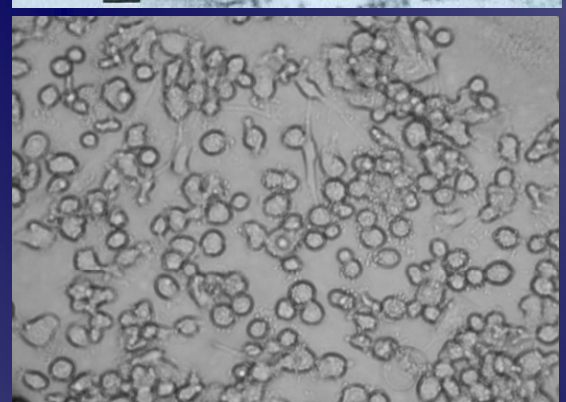
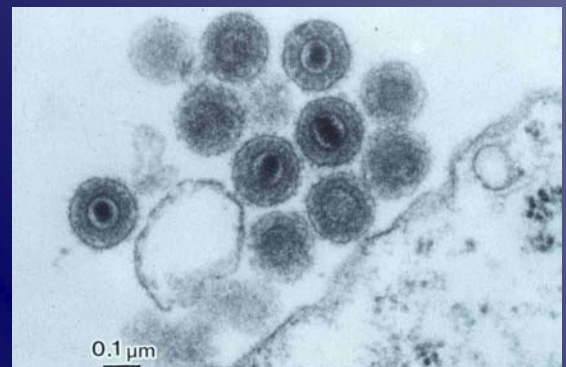
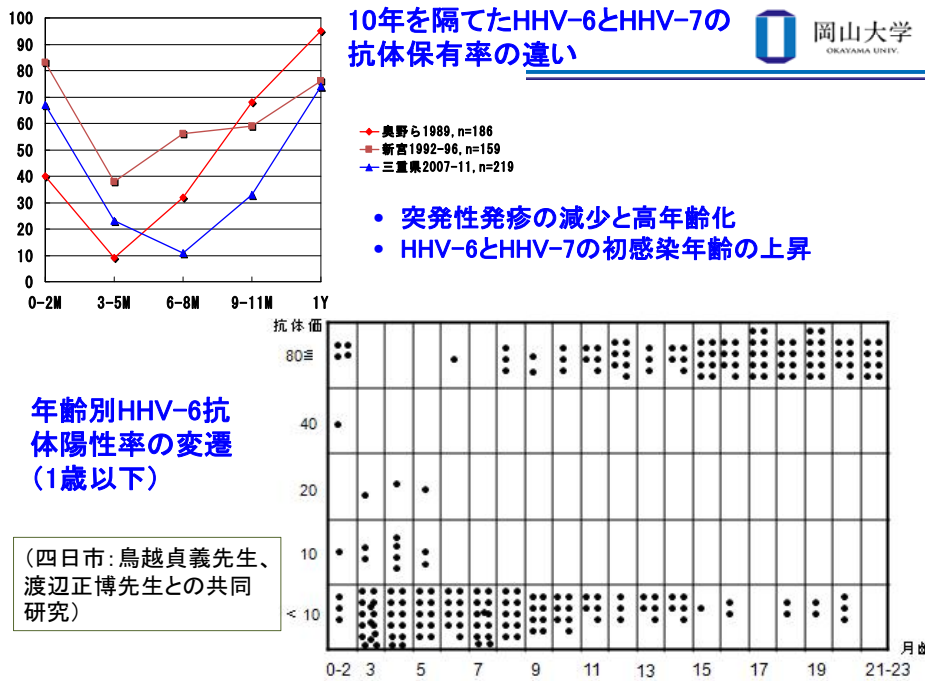
ヒトヘルペスウイルス6, 7 (HHV-6, -7: 右上段の写真はHHV-7の電子顕微鏡写真) 感染の自然史と宿主免疫応答の研究を進めている。HHV-6, -7は、乳幼児期に初感染し突発性発疹を引き起こしたのち、体の中に潜伏感染し、免疫抑制状態のときに再活性化してくる。HHV-6, -7は、Tリンパ球に感染することがわかっている。最近、HHV-6, -7が、造血幹細胞や、宿主免疫応答の要となる樹状細胞とどのような相互作用をするかを明らかにしてきた。現在は、肥満細胞とHHV-6, -7の相互作用を調べている。宿主域が狭く、好適な動物モデル系がないので、ヒト臍帯血から、樹状細胞や肥満細胞を分化誘導して、感染実験を行っている(右下段の写真は、ヒト臍帯血から分化誘導した肥満細胞)。

2) 臨床ウイルス学的研究:

三重県の小児科医との共同研究で、10年を隔てた突発性発疹の発生状況と、HHV-6とHHV-7の抗体保有率の違いから、突発性発疹の減少と高年齢化、HHV-6とHHV-7の初感染年齢の上昇を明らかにしている(図左)。

やっていることは、分子生物学だろう、生化学だろう、免疫学だろうというのは、「痒いところに手が届かない。」生き物として蛇(ウイルス)に向き合わなければ、ある時期ちゃんと扱う訓練を受けてなければ、マスターできない何かがある。

基礎医学・臨床医学を問わず、医学部出身のウイルス学研究者の需要は高いと思われます。内科、あるいは小児科医として感染症の診断・治療することに加えて、ウイルスを取り扱う研究手法を持っている医師というイメージです。研究職から国際機関でのミッションまで活躍の機会は幅広いといえます。一定期間、ラボでウイルスを扱ったこと、研究したことが将来に生きると思います。



連絡先

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 病原ウイルス学(教授:山田雅夫)
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 基礎研究棟8階

Tel: 086-235-7163 fax: 086-235-7169

E-mail: masao@md.okayama-u.ac.jp URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/virology/index.html>